



団体や政党の違いを乗り越え、全国的に例のない画期的な取り組み

「改憲阻止いばらき総がかり行動」

決起集会 開催！

「立憲主義を回復し、憲法改悪を阻止するいばらき総がかり実行委員会」は、7つの平和運動団体、及び4政党の呼び掛けで5月31日（火）に結成されました。

「改憲阻止いばらき総がかり実行委員会」（略称）は、6月8日（水）、水戸駅北口デッキにおいて「第1回 改憲阻止いばらき総がかり行動」を開催しました。大子・土浦・かすみがうら・竜ヶ崎など遠方からも駆けつけて来られ、約150名が集会とデモ行進に参加しました。

「茨城県平和委員会」からは神原要事務局次長が、百里基地を見下ろす9条の丘に「自衛隊は憲法違反」の大看板を建て替えたこと。「戦争法の廃止を求める茨城県民連絡会」の田中重博代表は「9条によ

る平和外交こそ進めるべきだ」などと訴えました。政党関係者からは、立憲民主党茨城県連副幹事長の玉造順一氏、日本共産党茨城県委員会副委員長の内久美子さんなどが「改憲ノー」を強調し、連帯の挨拶をしました。

■参議院選において「改憲勢力の3分の2獲得を許してはならない」の声！

集会後、银杏坂から南町自由広場まで「改憲進める政治を止めよう」「子どもの未来を守ろう」などとコールしながら行進しました。梅雨入りによって心配された雨も降らず、自由広場に到着するころにはビルの谷間に夕日が差していました。

コロナ禍によって自粛されてきた街頭での集会とデモ行進が団体や政党の違いを乗り越えておこなわれました。全国的にみても例のない画期的な取り組みとなりました。自公政権、日本維新の会、国民民主党は「改憲」「防衛予算の増額」等「戦争する国づくり」を公約としています。6月22日公示予定の参議院選において「改憲勢力の3分の2獲得を許してはならない」「岸田政権の目論む憲法改悪を許さない」（実行委員会結成の目的）ことを改めて確認した集会になりました。（報告 篠原 睦）



「東海第二原発の再稼働反対」 スタンディング

—石岡平和の会

石岡平和の会は6月10日（金）、市内の2箇所です「東海第二原発の再稼働に反対」スタンディングを行いました。これは「とめよう！東海第二原発 首都圏連絡会」が呼びかけた一斉行動に賛同したもので、今回は第4弾として青森から長崎まで70箇所です10日～12日にかけて行われました。茨城からは他に牛久、つくば、土浦、鹿島、東海、竜ヶ崎の参加。回を追うごとに広がっています。（石岡平和の会 増山 みゆき）



各地で総会が開かれる —取り組みを振り返り、活動に展望

第3回理事会（5月14日）以降、各地で平和の会総会が開催されています。5月21日（土）には「石岡平和の会総会」、5月22日（日）には「おおみや平和の会」、5月27日（金）には「阿見平和の会」が総会を開催しました。（詳細は次号にて）



発言中の梅沢さん▲

百里基地のたたかいと「土地利用規制法の問題」

日本平和委員会第72回定期大会が、6月4・5日の両日「オンライン開催」されました。茨城県平和委員会から、梅沢優代議員が初日の全体会で発言しました。その内容を採録しご紹介します。

■65年以上続いている運動 ～自衛隊は憲法違反～

今年に入って、百里基地反対運動に係わった人たちはすべてお亡くなりになりました。この運動は、65年以上続いております。わたしは2世代目なのです。今年、一般社団法人「百里の会」では、46年前に作られた「自衛隊は憲法違反」という8文字の大きな看板を建て替えました。10ヶ月、19回の作業の末、4月に完成しました。航空自衛隊百里基地にある旧海軍航空隊の射爆場跡地、12m程高い中腹から百里基地を見下ろすように建っています。この看板は茨城の百里と北海道の矢白別にあります。

わたしはこの8文字の意義こそ、今日、そして現代に問われると思います。21世紀は、もはや軍備を競うことで平和を推奨する時代ではありません。ロシアによるウクライナ侵略に見る時代錯誤の考えから人々は解放されるべきです。

■「戦力を持たない」と示すことが平和な未来を開く

戦争の拠点ともなる基地を無くすことは、時期を待つのではなく、行動すべきで、看板を建て替えた価値は大いにありました。先の大戦で命を奪われた国民の無念を今、生きている者が代弁し、戦力を持たないと示すことが未来を開き平和に生きることに繋がると思います。

平和になれば自衛隊はその存在価値を失いますが、保身のために、それを恐れて平和を望む人々を敵視しデモ等を押さえ込もうとしています。政府は力のバランスとか言って防衛予算拡大に走ろうとしています。まさに時代の逆行で全く不合理です。国庫は1つしかないのですから、国民には税負担を含めて食料、生活に必ずしわ寄せが来て社会保障も見通せなくなります。今や自衛隊基地そのものを問う闘いは希少となっています。皆さまどうぞ百

里において頂き、基地の現実をご覧ください。

■戦争準備のための悪法「土地利用規制法」

さて、次の問題として、今年の9月に施行される土地利用規制法があります。去年の国会で閉会直前、それも6月16日未明に強行採決されたこの法は、内閣の閣議決定や政令によって私権の制限が過度に及ぶと言われている希代の悪法で、その対象は不明であり、無限定なことが明確にされており、厳しい罰則もあります。

先月26日、内閣官房参事官補の小林氏に問い合わせたところ、その対象は「無制限である」とハッキリ開き直られました。ちなみにこの法律は「重要土地等調査法」と呼んでいるようです。米軍、自衛隊、原発の周辺住民を疑いを持って、自衛隊を中心とした人たちが調査するのです。戦争準備のための土地を売らないとした農家に対し、国が「阻害行為」と呼ぶのも初めてです。400㌦の土地から住人を追い出し、営農を阻害したのは自衛隊の基地です。

自衛隊は、いまだに基地のために土地を買えません。憲法に違反しているからです。土地は防衛省が買って移管するのです。しかし、この悪法、5年後には大きく変身します。やがては自衛隊が土地を収用できるようにもなりかねません。それは「付則2条」に書かれています。施行されると大変なことになります。これも戦争準備の端緒なのです。

皆さま、日一日と政府によって深い眠りにつかされている国民に、今こそ平和委員会の力で目を開かせてください。最高裁まで闘った百里裁判は、「統治行為論」という司法の自殺行為によって敗れはしました。どうしたら挽回できるかを大学の先生にお聞きしたところ、一言「選挙です」と言われました。近づく参議院選挙、頑張りましょう。(梅沢 優 代議員・百里平和委員会会長)

◆「土地利用規制法廃止」を求める請願提出(6月議会)を進めています。現在、「東海村」・「茨城町」・「銚田市」・「常陸太田市」議会等に「請願」が提出されています。

♪ 同志になった気分で聴いている ♪

(篠原 睦)

ミュージシャンの桑田圭祐が呼びかけて佐野元春、野口五郎、世良公則、Charと新曲を発表した。タイトルは「時代遅れのロックンロール」。桑田が作詞作曲を担当した。軽快なメロディに乗せて歌われている歌詞は、憂いと決意が語られる。

「この頃『平和』という文字が朧げに霞んで見えるんだ。意味さえ虚ろに響く」と歌い出す。戦時下のウクライナや軍政下のミャンマーなどが頭をよぎる。いやいや、9条改悪、防衛費増額、敵基地攻撃能力の保有を言い出している岸田政権のことか、と邪推する。中盤では「子供の命を全力で大人が守ること」「それが自由という名の

誇りさ」と歌う。大人の責任は民主主義を全力で守ること、子供の未来と命を犠牲にしてならない。

「この世に大切なひとりひとりが居て」だから「いつになれば矛盾だらけの競争は終わるんだろ」と「力の論理」を否定する。「闇を照らすダサイロックンロール」と桑田の矜持がさく裂し、終わる。時代遅れどころか、時代を切り取っているロックロールだ。5人の共通点は1955年から56年生まれ。わたしも1956年生まれ。「同志」になった気分で聴いている。(2022年6月13日)

